



森林ふれあい情報

平成29年10月
第44号

林野庁中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp



長野県木曾郡木曾町キビオ峠から初冠雪の木曾御嶽山を望む

「城山史跡の森」

希少種等の個体調査と保護活動

当センターの主要な活動フィールドの一つである、木曾町福島の城山国有林内の「城山史跡の森」には、ヤマシャクヤク、ササユリ、カザグルマなどの県指定希少野生植物が生育しており、これらの植物に加え群生が見られるカタクリについて個体数の増減を毎年調査しています。昨年は例年より10日～2週間ほど開花が早まりましたが、今年は例年なみの時期に開花を迎えていました。

また、これらの個体数調査とともに、「城山史跡の森倶楽部」と連携した希少野生植物の保護、遊歩道の整備等にも取り組んでいます。

【カタクリ】(4月29日(土)調査)

全9プロットのうち6プロットで開花(23)、蕾(14)が確認され、昨年同時期の22に比べて増加していました。

一部のプロットではササの繁茂が進んでいることから、ササの処理等の再整備について検討したいと考えています。



【ヤマシャクヤク】(5月12日(金)調査)

今年の開花数は207と一昨年(264)に比べて2割の減少、個体数では345と昨年(357)からわずかに減少しました。

【ササユリ】(6月15日(木)調査)

開花数は昨年の29から32に増加しました。昨年から生育地に電気柵を設置しており、動物による食害が発生しなかったことで増加する傾向を示したのではないかと考えられます。



【カザグルマ】(5月24日(水)調査)

昨年、支柱の竹竿を取り替えたことで、蔓が十分に巻き付いていなかったこともあり、花数では一昨年(139)に比べ今年は70と半減しました。

【ササユリ、ヤマシャクヤク生育地の整備】

5月8日(月)、城山史跡の森倶楽部等14名が参加し、ササユリ、ヤマシャクヤク生育地の整備として電気柵の設置作業を行いました。

ヤマシャクヤクの生育地では2年前から個体数が減少しており、動物からの影響が一因として考えられたことから、今年度から新たに設置することにしました。

急傾斜地等のため足場が悪い中、電気柵の支柱建てやワイヤーの取り付けと、保全活動への啓発、事故防止のため電気柵の周囲へのグリーンロープも取り付けました。

また、ササユリ生育地は昨年度に引き続き電気柵を設置し、柵に障害物が触れないように雑草等の刈り払いと、隣接するあずま屋等の構造物にも配慮しながら設置を行いました。

天候に恵まれ、地域のみなさんの協力もあり、総延長320mの作設を無事に終えることができました。



設置後の電気柵



支柱への巻き付け作業

【カザグルマの整備】

カザグルマは、つる性の低木で林縁部の日当たりのいい場所を好み、5月下旬から6月上旬に白や淡紫色の大きめで可憐な花を多数付けます。

5月8日(月)、18日(木)に支柱へ蔓の巻き付けと、生育を阻害するクズ類の除去を行いました。

教職員を対象とした森林・林業体験学習会

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾郡内の教職員を対象とした「平成29年度森林・林業学習会」を8月7日（月）に開催しました。

この学習会は、森林・林業の役割や国有林への理解、森林環境教育の重要性についての認識を高めて学校教育に積極的に導入してもらうことを目的に平成14年度から実施しているものです。

当日は、木曾郡内の教職員8名及び関係者4名の計12名で、あいにくの台風の接近により予定したコースを若干変更して開始となりました。

まずは、ほおのき峠で高齢人工林と針広混交天然林の対比を見聞し、さわら窪では約300年生のサワラの勇壮さに関心していました。

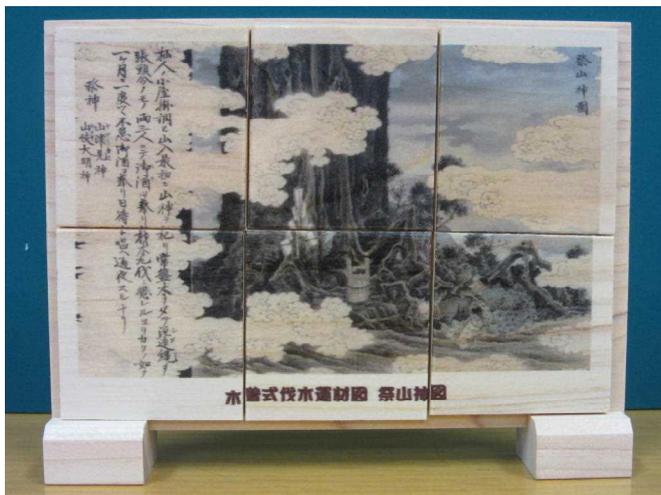
森林鉄道軌道跡では、ヒノキとサワラの見分け方やアスナロの特性等について学習し、その後訪れたウルシ沢天然林では、根上（ねあがり）ヒノキ天然木などの赤沢自然休養林に残存する温帯性針葉樹の神秘に見入っていました。

参加者からは、「他の教員にも広めたい」「300年生のヒノキの前では人間の一生は短い」などの貴重な感想が寄せられました。



ほおのき木峠で天然林と人工林を説明

木曾谷支援の取組「木曾路トレッキングパズルラリー」



第4弾パズル完成品（祭山神図）

木曾路の遊歩道を散策し、森林に親しみながら森林の大切さを理解してもらうため、木曾地域6町村内の散策コースに置かれたパズルチップを集めて一つの絵を完成させる「木曾路トレッキングパズルラリー」を平成28年度に開始しました。

その普及版として、「赤沢自然休養林コース」を同時にスタートしましたが、好評を博し、平成29年9月より第4弾を開催しています。

絵柄に使用した絵は、中部森林管理局が所蔵する江戸時代後期頃の伐木運材方法の様子が描かれた、上下2巻の絵巻物「木曾式伐木運材図会」に掲載されているものの中から「祭山神図」を用いました。

中央アルプスでの植生復元作業

中央アルプス駒ヶ岳（標高2,956m）の頂上周辺では、登山者の踏み荒らしや、大量の降雨、降雪、強風による砂礫の移動等により貴重な高山植物の衰退が懸念され、当センターでは関係機関・団体等と連携して植生の衰退防止と復元を図ることを目的に平成17年度から植生マットの敷設作業を開始し、平成28年度までにマットの補修（敷き直し）を含めて延べ2,223㎡を実行してきました。



駒ヶ岳での作業中の写真

植生マットの敷設とともに高山植物保護の看板を設置したことから、登山者による踏み荒らしの回避、表土の流出防止、砂礫の移動を最小限に抑える等の効果があり、駒ヶ岳の植生が徐々にではありますが着実に復元してきています。

今年度は9月14日（木）、駒ヶ根市農林課職員の方をはじめ南信・木曾署員等16名の参加のもと、ロープウェイ山頂駅から現地までの資材運搬と植生マット敷設（95㎡）及び高山植物種子の播種作業を行いました。

現地は平成17年度に植生マットを敷設した箇所では概ね順調に植生回復を示す

ものの、一部では回復が進んでいないこともあり、再度の敷設作業を行ったところです。

例年以上の好天に恵まれ、作業も無事に終了しました。

また、空木岳（標高2,864m）の周辺においても平成15～16年度にかけて植生復元作業を行ってきたところで、実施から12年経過しましたが、登山道脇での回復が進んでいなかったことから、駒ヶ岳周辺と同様に植生マットの敷設作業（15㎡）を9月25日（月）に実施しました。

今後も、実行箇所における植生回復の経過観察を行いつつ、補修が必要な箇所への敷設作業を取り入れるなど、高山帯での植生復元事業に取り組んでいきたいと考えています。



空木岳での作業の様子

ニホンジカ対策

深刻化しているニホンジカによる被害について、木曽地方では顕著に現れていない状況ですが、今後、各地への被害が懸念されるところで、木曽森林管理署及び木曽森林管理署南木曽支署では実態に応じた対策が進められています。

当センターでも近隣署等との連携を図り、今年度からニホンジカ対策を始めています。

ニホンジカの生息状況調査

昨年度から中央アルプス高山帯等へセンサーカメラを設置し、ニホンジカの移動状況等の観測を行っており、確認された地点にはセンサーカメラを増設するなど監視を続けています。

中央アルプス南部に位置する空木岳周辺、越百山（こすもやま）周辺の標高2,500～2,600m付近でニホンジカの移動は確認されたところです。

また、山麓においては長野県、木曽森林管理署と連携してライトセンサスをはじめました。5月から月1回のペースで日没後2時間程度実施していますが、道路沿いの草木の繁茂もあり、9月まで実施したところシカの確認には至りませんでした。



センサーカメラの設置状況

捕獲実証試験



くくりわなの設置（手前は干し草）

山麓部において餌付けによる誘引捕獲試験を5～7月に行いました。首用のくくりわなによる試験でしたが、設置済みのセンサーカメラには時折シカが撮影されるものの、捕獲には結びつきませんでした。設置の時期、場所など、まだまだ検討すべき課題が沢山ありますが、関係機関等と連携しながら冬に向けての取り組みを進め、被害の軽減につながればと考えています。



木曾悠久の森

平成26年4月に森林生物多様性復元地域として、木曾ヒノキ、サワラ等の温帯性針葉樹林の保護と復元を図ることを目的に設定された「木曾悠久の森」について、より多くの方に関心をへ深めていただくよう、各種の取り組みを進めています。



地元住民等への講座の実施



講座の様子

木曾悠久の森のエリアの一つである赤沢自然休養林において、6月24日（土）「赤沢自然休養林ガイド養成講座」、8月4日（金）「木曾山林協会林業職員部会研修会」の講師として招かれ、木曾悠久の森の取り組みについて、現地見学を交え説明を行いました。

現地見学は、核心地域のうち天然林を厳格に保存する「コアa」と、人工林から天然林へ復元する「コアb」の区域境となる「向山コース」にて、異なる林相を対比しながら、取り組むべき課題、将来の森のイメージ等について説明を行い、参加者からは、「実際の森林の見ながらの話しが聞けて良かった。」、「この先数百年

にかけての取り組みには驚いた。」といった感想が寄せられました。

今後も関係団体等と連携して、多くの方に木曾悠久の森が広く認識していただける機会を作っていきたいと考えています。

第2回木曾悠久の森写真コンテスト

27年度の第1回に続き、6月から「第2回木曾悠久の森写真コンテスト」を開催しています。今回は6月～1月まで8ヶ月の期間を設けて作品を募集しています。四季それぞれに変化する森の表情、木々の姿など、皆様からの力作をお待ちしております。

写真コンテストに関するご案内はこちらにアクセスして下さい。

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/keikaku/170531.html>



第2四半期その他の活動及び行事等

月	日	活動内容
7	2	城山史跡の森 遊歩道等整備作業 (木曾郡木曾町「城山史跡の森」)
	3	第2回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾郡木曾町)
	4・20	フォレストワーカー(緑の雇用研修) (木曾郡上松町「赤沢自然休養林」)
	11~12	木曾悠久の森管理委員会 (木曾郡上松町、王滝村)
	19	ゴミゼロ運動(木曾郡上松町)
	28	赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー第3弾終了 (木曾郡上松町「赤沢自然休養林」)
	31	木曾地区みどりの少年団交流集会 (木曾郡木祖村「こだまの森」)
8	2	高山植物等保護合同パトロール (木曾郡木曾町)
	3	第3回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾郡木曾町)
	4	木曾山林協会林業職員部会技術研修会 (木曾郡上松町「赤沢自然休養林」)
	9	鳥獣保護と狩猟に関する講習会 (木曾森林管理署)
	29	第4回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾郡木曾町)
	30	木曾悠久の森管理委員会 (岐阜県中津川市)
9	9	城山史跡の森 遊歩道等整備作業 (木曾郡木曾町「城山史跡の森」)
	16	みよし市友好の森ふれあいツアー (木曾郡木曾町)
	29	第5回 ライトセンサスによるニホンジカ生息調査(木曾郡木曾町)



木曾地区みどりの少年団交流集会



みよし市友好の森ふれあいツアー



ライトセンサスによるニホンジカ生息調査